

第4回琴浦町小学校適正規模・配置審議会 会議概要

日時 平成20年9月19日午後7時00分～午後9時00分

場所 まなびタウンとうはく 4階 研修室

教育長挨拶

第4回の琴浦町小学校適正規模・配置審議会にお集まりいただきありがとうございます。本日は、第3回目の概要、財政状況等資料を出させてもらっています。新たな切り口で、ご審議を深めていただけたらと思います。

会長挨拶

皆さんご苦労様です、今日は、第3回の審議会概要、また町の財政等の資料、A小学校のアンケート結果等についてご意見をいただけたらと思います。

- 第3回審議会概要について、委員さんには送付していますが、この中で意見はありませんか。無いようですので、A小学校のアンケートの報告をお願いします。
- 9月の教育懇談会で、再編問題を話し合う中で、事前に参加者の意向を探るため約50名を対象にアンケートを行ない、39名の回答があった。
再編についてどうかという質問には、必要ない11名、必要だ11名、わからない16名という結果となった。また通学距離は現状のまま、1クラスの人数は15名、1校は100名くらいという意見が多かった。
これを基に、3グループに分けて意見交換を行なった。おもな内容としては、残してほしい、地域が寂れてしまうというような意見や、また、どうせ決まっているのだからとか、諦めておられる様な意見もあった。
- 2グループの意見で、本当に合併をすれば、財政的にどうかというような意見があった。一般的に合併すれば職員の数減るが、職員(先生)の人件費は国費と県費から出ているため、町の財政的にはそんなに変わらないのでは。また仮に合併になり、残った校舎のことも考えるとどうか?という意見もあった。
- 財政的なことは、このあと事務局から説明します。私も仮に合併になった場合、残った校舎をどうするかということも考えておかなければならない、大きな問題だと思っています。

【財政状況】

- 学校の経費と町財政について、事務局から説明してください。
- この資料は平成19年度決算から小学校の維持管理費的なものを、小学校ごとに計上したもので、1校あたり700万円から1000万円の経費がかかっています。また町の財政推計は、総合計画の資料で、平成19年から28年を推計したものを、平成18・19年決算、20年予算を置き換えて、平成21年度以降を審議会資料として事務局で試算したものです。推計では、歳入より、歳出が上回っており、基金を取り崩しながらの財政運営となっており、平成28年には基金がなくなるような結果となりました。

さらに平成19年度の決算から歳出の割合を出すと、教育費は全体の7%（約7億円）で、そのうち小学校費は、教育費の18%（1億2千万円）で、中学校費は10%（7千万円）です。ただし建設費は除いてあります。
- この資料では、維持管理経費について、多少の差はあるが、年間700万円から1000万円の経費がかかるという状況を数字で示しています。

財政推計にしても現在の基金が28年度にはなくなるということを表しています、この資料に対する質問等は？
- 前に別の会で、見せてもらった財政推計は、23年ごろに基金がなくなるようなものであった。また今日の新聞に、財政健全化法に基づく町の財政の状況が出ていたが、これは財政的にどうなのか？
- 現在の状況は、各種財政指標の割合がどこまで行ったら、危険ですよというものを表していて、まだ危険水域まで入っていませんが、厳しい状況には変わりありません。財政推計は18年・19年決算、20年予算を反映させれば、このような推計になっています。

先ほど、教職員の増減に伴う人件費は、町の財政にはそんなに関係ないか？とありましたが、確かに、国1/3、県2/3の負担割合で、町の負担はありません。しかし、例えば県の財政状況が厳しくなれば、県単独の加配教員等が減ることも考えられ、それに伴って、町で配置している30人学級や、複式解消加配教員の町費負担も増えてくるのではと思っています。
- たとえ、中学校並に旧町で1校ずつにしても、中学校位の負担があるとなると、町全体で考えると、そう大きな削減額でないのでは。
- 学校の適正規模というか、文科省の標準学級数1学年2～3は教育的に見て適正ということではなく、財政的に見ての適正規模では？予算的な問題と、どのくらいの規模が、子供にとって良いかは切り離して考えないといけないのではないか。
- この資料では、1校あたりの運営費が出ているが、これを単純に何校減

せば、その分財源が減るというものでもない。それにより新たな財源も必要になってくるし、跡地等の問題も出てくる、しかしこういう状況であることを認識し、少ない経費を有効に活用することも考えていかななくてはならない。また教育の内容を高めると言う意味では、分けて考えることも必要では。

- 跡地の問題で、よその町ではそのまま放置され廃墟になっているような所もあり、その維持管理にも費用が要る。そう考えると合併しても財源的にはそう変わらないのでは。
- 今はまだ跡地の利用については、考えないほうが良い。
- 跡地問題は、この会の性格上どうか？ここでは教育的にどうかを、議論すればいいのでは？
- 仮に統廃合され跡地が生じた場合、教育の全体を考えると、地域の教育力、社会教育を考えたら、跡地の問題は考えておかなければならないと思っている。
- 今の町の財政は、予算をあれもこれもというような状況ではない、全体に経常的な経費を如何に抑えての、財政運営でないかと思う、そういうことを財政担当に説明してもらったらどうか。
- 教育懇談会に出たとき、行財政審議会では、財政的な問題があるので、小学校を合併するという答申で、財源がないのであれば仕方がないという考え方の人もあったが、今教育の質を高めるにはどうしたらいいか、それによって財政的な効果も生まれると考えるといけなと思った。行財政審議会の中では、どういう財政状況で、どのように判断されたか、聞いておくと、審議の参考になるのでは。
- 行財政審議会では、平成23年には基金がなくなるという財政推計で、大変な状況だなどの思いで審議をしていた。しかし今日の財政推計を見ると28年度までは、基金が持つようになっていて、このあたりの町の推計の出し方もどうなのかとは思う。
- 限られた会の回数なので、ある程度方向性を探るような議論も必要では、あまり財政的な面での議論は、必要ないのでは？
- 学校の経費には、管理費と、振興費に分かれていて、管理費は学校数が少なくなれば、予算は減少します。振興費は、児童等で配分しているため、そんなには変わらないと思います。例えば管理費等が減ってくれば、質の高い教育サービス等いろいろな選択肢が増えるのではないかと考えている。
財政面だけで話をすれば苦しい議論になるが、子供が減少していく中で、琴浦町の学校教育の在り方はどうかを主題としながら、財政もその中の一つの要件であると、考えていただけたらと思います。

- 例えば統合になっても、小学校全体の予算は削らないでほしい、先ほどいわれたように質の高い教育を目指してほしい。
- 1校ずつの経費が出ているが、他町の状況はわからないか。また跡地の状況等もわかれば。
- 今出ました、他町の状況、跡地の利用状況、小学校予算のもう少し詳しい状況等を事務局で調査をお願いします。こういうことも踏まえて、適正規模はどうかという議論に戻りたいと思います。

【適正規模と学校のあり方】

- 文科省は小学校の適正規模の基準を中教審で審議する、また小学校に英語の導入ということで、小中一貫校の推進をというような、報道があったように思うが、そうすると学校の方向性も違ってくるのでは。
- 一貫して教育することは大事なことで、小学校から中学校へ上がったとき、つまりくことがあり、それは小規模の、いくつかの小学校から、中学校に上がったときに多く、規模が大きくなればそのあたりの障害も緩和される。また小中学校間での教科の交流ということも大事である。
- 行政改革審議会も、全般的な財政の話もしたが、小学校の問題については、教育的な視点についても激しい議論をした。
- 小中一貫校は、響きもよく興味もあるが、中身も良くわからないので、資料等でもあれば提供していただきたい。また方向はそちらに向かって行ったら良いのか、適正規模の論議か、これまで課題と現状を把握し、大、小規模校のいいところを話してきた、今後の方向をどう見定めていけばいいのか、このまま同じような議論をしても、そろそろある程度の方向を見据えて進めて行ったらと思いますが。
- 今の話は、現状のままで良いのか、統合か、具体的ビジョンを示してほしい、それが小中一貫であってもどうかを含めて。
鳥取市は湖南学園という小中一貫の学校を造ろうとしている。校舎は元の校舎で、人的、物的資源を有効活用する。同地区は小さい時から序列が決まってしまう、その固定観念をとるとというような意味合いで、一貫校をというふうに聞いている。事務局で一貫校の情報を。
- 県は高校再編について、23年頃を目標に議論しており生徒の変遷によって、適正規模ということで再編を行なっている。小中の場合には地域密着ということもあるので、議論を聞いていると判断に迷うが、数年後には150人減というような数字も出ている、それも見越した適正規模ということを入れた議論が必要では。
- 小中一貫教育の資料等は集めて提供します。町は、0歳から15歳の教

育の一貫性をどうするかという発想が大事で、0歳から5歳は、学びの基礎を育む取り組み、それを小学校にどうつなげるかを実践している。また小1から中3までの一貫性を琴浦サインということで、小学校6年生の中学への体験入学等で小中の連携を図っている。

- 県下にも小中一貫の事例はいくつかあると思いますので、資料の提供をお願いします。今日の議論は財政面からはそんなに変わらない、適正規模は子供たちの教育をどうするか、原点に立ち返って考えるべきだということの確認できた。
- PTA役員で、このことについて話し合いを持った中で、財政面の議論が先行すると良くない、やはりよりよい教育とは何かを論議していく必要がある。また適正規模は、現場の先生では一人一人に目が届くため、今(少人数)のままでよい、私は人間関係を考えると多人数の方が、もまれて遅くなるというように思っている。
- 小規模校は遅しくないとか、大規模校は遅しいというように、一括りに考えないほうがいいのでは。
- 学校の先生は、それぞれ大・小規模校のいいところを言われると思うが、現実的には子供の数が大きく減少する中で、どうなのか。自分はある程度の規模が無いといけないと思っている。
- 将来的な児童数、財政面も見ていく必要があるし、次の段階として、小学校、保育所も含めて一定の方向を出していかなくてはならない。
- この審議会で、障害のある子供のことも考えて、現状のまま、統合ということの議論をしてほしい。
- 大体、話しも大規模校、小規模校の、メリット、デメリットの話がグルグル回って、前に進まない。別の会でも子供達のために、何が適正かを考えたとき、1学年に2組は無いと、いけないという意見が多かった。そこで、将来の子供の推移を見ながら、具体的な検討も必要では。
- 統廃合について、良い条件、悪い条件がいろいろ出たが、統合したとしたら、どういう青写真が描けるのか、そのまま残したら、どういうデメリットが生じるのか、もう一回考えてみる必要がある。また地域のコミュニティについても考えておく必要がある。

【教育のあり方】

- より良い教育の目指すところは何なのか、質の高い教育とはと考えたとき、簡単に答えの出せる問題でもないのかな？
- 一般的に言われているのは、一人の先生にあまり多くない児童のほうが目が行き届いて良いと言われている。

- 学校全体で学年1学級なら6人の先生、2学級なら12人の先生と、児童1人から見れば6人の先生か、12人の先生ということになる、そう考えると1クラスの児童数が少ないのが一概にいい教育とは言えないのでは。
- 私が思うのは、学力が身につけば、子供の選択肢が広がり、いろいろなことに興味を持ち、将来の夢や生き方を考える力がつく教育ではないかと思えます。
- 人間としてどうあるべきかを考える力、例えば他の人を思いやることとか、それが根本でないかと思えます。
- 私も力をつけることが大事で、その力とは、学力・生きる力で、そのことによって、進路保障の選択幅が広がるのではないかと思っている。また私自身は、仲間同士が叱咤激励したり、クラスで行事等を行なう場合でも30人位がいいのかなと思っています。

【まとめ】

- 人間性を育てるという中に、学力、生きる力、人を思いやる心とか含まれていると思います。それが学校の規模の大小で、適正規模でないため、育てることが出来ないことは残念で、そこで社会性を育てる、人間性を育てるためには、どういう在り方がいいのか、研究していきたい。そのために今日の話を踏まえて、もう少し具体的な話し合いを次回はしていきたい。
- 次回の資料として、他町村の予算の状況、仮に統合した場合の跡地の問題等提案できればと思っています。

次回は11月中旬ごろの午後3時から開催したいと思います。

午後9時00分閉会